

第7回学会報告記 Euroecho2014@Wien(Vienna)

関西労災病院循環器内科の神田貴史です。主に不整脈、心不全を担当し、日々臨床に励んでおります。

今回は先日ウィーンで開催された、Euroecho です。Euroecho は現在世界最大規模の循環器学会である ESC の主催する心エコーが中心の学会です。当院からは上松副院長と私が参加しました。

1 出発～ウィーン到着

学会は12月3日から12月6日までの4日間開催されました。私は12月2日夕方に日本を出発しました。伊丹空港→羽田空港→フランクフルト→ウィーンと3回飛行機に乗る予定だったのですが伊丹でANAの係りの人から伝えられたのは、ルフトハンザがスト中で、もしかしたらフランクフルトからウィーンまで飛行機が飛ばないかもしれませんといわれてしまいました。最悪陸路でフランクフルトから移動することも覚悟での出発となりました。結局ストの影響なくウィーンにたどり着けたのですが、気が気じゃなかったです。



宿泊ホテル近くのシュテファンシュプラッツ。
クリスマス前ということであちこちでクリスマスマーケット
が開催されており、華やか、にぎやかでした。



街中にモーツァルトが溢れていました。
モーツァルトクーゲルンというチョコが名産
だからみたいです。

2 学会

学会は少し中心地から離れた見本市で行われました。

オーストリアはドイツのお隣ということで、言語はドイツ語、街並みもドイツっぽい落ち着いた感じでした。会場も近代的な建築で、カッコええなあという感じでした。



会場。





会場内。(メイン会場と企業ブース)

心エコーのみの学会なので、ESC などに比べると全体の規模は小さいですが、メイン会場は大きく、聴衆も多く、セッションによっては立ち見も見られました。企業ブースは欧米企業に立ち向かう日本企業のブースも多くみられました。

私の発表は肺血管抵抗のエコーによる推定に関する発表をさせていただきました。

肺血管抵抗は心不全や肺高血圧症患者様を治療する際の非常に重要な指標であるのですが、それを計測するには右心カテーテル検査という侵襲的な検査を行うのが通常です。カテーテル検査を要さずエコーによる推定ができないかと、これまでもいくつかの推定法が報告されてきましたが、経験式に基づいた推定法であり、なかなか有用な方法がないのが現状でした。今回我々はいくつかの計算式を織り交ぜ、理論式から導いた推定法を報告させていただきました。

発表時には複数のポスターチェアマンが巡回し、演題についてディスカッションがなされました。

私の発表に対してもさまざまな国の先生から、鋭い質問をいくつもいただき今後の課題がでたなぁと部長と話しておりました。これだけで十分得るものは多かったのですが、なんと幸いなことに、ポスターセッションの中で優秀演題に選んでいただくことができました。賞状と賞品（ESC 発行のエコーのガイドライン）をいただきました。課題が見つかった一方で自信も得ることができ、大変いい経験をさせていただきました。



3 学会後活動

学会は夕方に終わり、夜はウィーン観光を少しさせていただきました。ウィーンは音楽の街と称されますが、実に多くの音楽家がウィーンとゆかりがあります。前述のモーツァルトをはじめとして、ベートーヴェン、シューベルト、ハイドン、ブラームス、マーラー、ヨハン・シュトラウス……と枚挙に暇がありません。街全体にクラシックが溢れており、昼間から夜までいたるところでクラシックやオペラのチケットが売られておりました。

ウィーンといえばウィーンフィルが有名ですが、残念ながらいいタイミングで公演がなく、我々はウィーンシンフォニカのコンサートに出かけました。ウィーンフィルではなかったのですが、会場はウィーンフィルのニューイヤーコンサートなどでも使用される楽友協会（ミュージクフェライン）の「黄金のホール」でした。

私自身は音楽に詳しくなく、コンサートの質をどうこう言えるほどの耳を持っていないのですが、黄金のホールの醸し出す雰囲気と、コンサートの迫力は学会の疲れも時差もすべて吹き飛ばしてくれるものでした。



コンサート会場にて。多くの音楽家の一糸乱れぬ演奏は圧巻でありました。指揮者もかっこいい！

また、食事もおーストリアならではの食事を楽しみました。最も有名なのはシュニッツェルと呼ばれる、子牛肉や豚肉をたたいて薄く延ばして揚げた料理でした。デザートでは日本でも有名なザッハトルテの本場がおーストリアです。ザッハーと呼ばれるウィーンあるカフェで出されたことからこの名前が付いたそうです。

ドイツの近くということでビールと合わせてこれらの料理を味わう日々で、顔が浮腫み、ウェイトアップに拍車がかかる日々でありました。



シュニッツェル（子牛肉のカツレツ）。意外とあっさりしていて美味でした。日本でも流行るかも？



ザッハトルテとリンゴのシュトルーデル（オーストリアのパイ菓子）。こちらは甘い！

4 まとめ

12月のウィーンということで非常に寒い学会でありましたが、オーストリアの街並みは非常にきれいで、街の人々も優しく、治安も良く、居心地は本当によかったです。勉強、刺激にも満ちた4日間でした。来年はセビージャ@スペインでの開催です。少しは暖かいでしょうか。

以上、関西労災病院循環器内科 Euroecho2014@ウィーン報告でした。医療関係者の皆様、患者様にかかわらず、多くの方に当科の活動を少しでも知っていただければ幸いです。

当科では14名の循環器内科医が指揮者上松部長のもと、日々患者様に最高の医療を提供できるよう奮闘し、日常臨床から得られた新たな知見は世界へ発信していこうと心がけております。ウィーンの交響楽団に負けないチームワークでこれからも頑張っていければと思います。

当院では熱意ある初期臨床研修医、後期臨床研修医を広く募集しております。詳しくは職員募集ページをご覧ください。